

まち・ひと・しごと創生  
総合戦略提案書

平成 27 年 8 月 31 日

岩国市議会  
地方創生総合戦略  
調査特別委員会



## ◆メインテーマ◆

### ～今、岩国から日本の未来を創る～

まち・ひと・しごと創生法が国会で制定され、東京一極集中や地方を中心とした人口減少に対し、国家が地方を支援しながら全国の自治体に自立した再生を促す地方創生総合戦略の計画を策定し実施することとなりました。

岩国市の現状は10年前の合併時に比べ、約13,000人の人口減少の結果、現在、約13万8,000人となっており、人口減少に歯止めがかからない状況にあります。岩国駅周辺の中心市街地の衰退や集客力不足、市内各所のベッドタウン住民の高齢化等、時代に取り残された街づくりを初め、合併後の中山間地域の農林業従事者や後継者不足に加え、さらに限界集落を超えた不在地域が増加しています。

今回の岩国市地方創生総合戦略を策定するにあたり、独創的でダイナミックに地域を創り上げることによって、岩国市に活気を取り戻し、魅力ある街へ変貌を遂げることを目的とした、“今、岩国から日本の未来を創る”地方創生総合戦略を岩国市議会として提案いたします。

## ◇サブテーマ◇

### <基地との共存>

岩国市は、米軍岩国基地並びに海上自衛隊岩国基地に対し、戦後一貫して協力してきた歴史を踏まえ、艦載機の移駐を認めると極東最大となる米軍岩国基地と今後も共存していくためにも、岩国市民に対して国家的プロジェクトでの支援策を、この岩国市地方創生総合戦略に基づいて実行すべきであると考えます。

このたびの地方創生総合戦略において、岩国市民が地域に誇りを持ち、若者から高齢者に至るまで安心して暮らせる国際観光交流都市に生まれ変わるために、中心市街地は都市機能（あきなう商・たべる食・すむ住・ひとと物のまじわり交流・交通）の基地となり、周辺地域は田園都市を形成し、山間地域は農林業の再生を果たし、自然を守り集落を形成

することにより、新たな<sup>みらい</sup>22世紀に向けた街づくりを基地との共存を保ちながら推進すべきであると考え、各分野ごとに次のとおり取りまとめをいたしました。

## 1. しごとづくり

まず、基地との共存を今後も継続した上で、航空機産業の誘致、空と海の港機能を生かしての経済特区による免税店やアメリカ村（仮称）の形成を果たすことにより、商業の発展によるしごとづくりを行うこととします。

また、中山間地域を中心にした農林業の推進による中山間地域の再生及び、日本酒を初めとする農林産物から発生する岩国ブランドの確立を目指した自然環境保全形のしごとづくりを提案いたします。

## 2. まちづくりとひとの流れ

日本や岩国が皆元気であった昭和の時代に回帰する、アメリカ村（仮称）の設置や航空博物館の建設、戦艦「陸奥」の引き揚げ及び復元、錦川清流線のSL復活等々、観光を主体とした国際交流都市として発展する素材づくりを推進すべきであると考えます。

そして何よりも減少を続ける人口に歯止めをかけるために、交通の利便性を生かし広島ベッドタウンとして岩国駅周辺並びに玖西地区を重点地域に位置づけ、10年後に人口16万人を達成する施策を提案いたします。

## 3. 結婚・出産・子育て

子育て日本一を目指す岩国市に見合った国家を築く子育て・教育(ひと)づくりを実行いたすべく、まず学校給食の無料化や基地の街である特色を生かした英語教育の推進等に力を注ぐと共に、今回の岩国市地方創生総合戦略の最大事業となる自治医科大学の創設に取り組むことを強く要望いたします。

なお、岩国市地方創生総合戦略に対する提案の詳細については、別紙のとおりです。

# ～しごとづくり～

## (基地との共存)

### 1-1 航空機産業の誘致

内容	人口減少が続く岩国市において、いかにして若者を定住させるかが今後の重要課題となる。定住を促進するには、若者が好む安定した雇用の場が必要となることは周知の通りである。現在、考えられる有力な企業誘致として、岩国基地に配備されているUS-2救難飛行艇を製造する新明和工業がある。現在、国は、US-2の海外輸出に力を入れており、その可能性としてインド・インドネシア・ブルネイなどの国名が上がっている。もし、US-2の海外輸出が成功すれば、当然、現在の新明和工業(甲南工場)では手狭となり、新たな工場建設が課題となるものと予想される。そこで、国内唯一の飛行艇が配備されている岩国市に新明和工業を誘致する。
理由	新明和工業を誘致できれば、雇用の場が創出され、人口定住にも寄与することが可能となる。また、新明和工業の誘致を起爆剤に、岩国工業高校に「航空学科」的な新たな学部の創設、あるいは航空専門大学の誘致などを行い、市外からの生徒募集で若い世代の定住を促進し、将来に航空産業を支える優秀な人材の育成を図ることが可能となるため。

### 1-2 地方免税店の推進

内容	空港型免税店や経済特区制度(免税・減税等)により地域経済の振興を図る。
理由	地域の消費拡大を図るため。

### 1-3 地域ブランド戦略の推進(岩国錦帯橋空港の活用)

内容	岩国錦帯橋空港を活用することによる、新しい物流の形態が確立されることとなったことから、鮮度が求められたり、重量が小さくて済むものなどを早く輸送することが可能になることにより、農産物加工品などの岩国の地域資源を発信する。また、岩国東京間の時間的短縮は、新たな観光客のニーズに対応することができるほか、ビジネスにおいても、重要な要因となる。
理由	最大の市場である東京との距離において、大きなハンディを抱えていたが、時間的短縮が図られることにより、岩国独自の「オンリーワン」を追求することができるため。



# ～まちづくりとひとの流れ～

## (昭和への回帰と未来への<sup>いざな</sup>誘い)

### 3-1 アメリカ村の設置

内容	岩国市の川下地区にアメリカ村を特区として創設し、昼は免税店を含めた商業地域、夜は飲食業を中心とした国際交流のできる街をつくる。
理由	米軍岩国基地があることによる特異性のある地域で、日米交流はもとより他の外国からの観光客も含め、国際交流と商業飲食業の集積地域とすることで、華やかで魅力の有る岩国の街づくりをするため。

### 3-2 航空博物館の建設

内容	米軍基地を単なる迷惑施設として考えるのではなく、積極的に有効活用し、飛行艇を中心に旧日本海軍時代から続く海上自衛隊航空機の歴史、海兵隊・海軍を中心とした在日米軍の歴史などを、実物の航空機や各種資料を通じて理解するための施設として、岩国基地の隣接地に大規模な航空博物館を建設する。
理由	岩国基地は海上自衛隊と米海兵隊、民間航空との共同使用という全国的にも珍しい基地。しかも、同基地に配備されている海上自衛隊は、国内はもとより、世界中どこを見ても存在しない救難飛行艇が配備された基地でもある。 2017年には、厚木基地からの空母艦載機の移駐、さらには米軍の最新鋭戦闘機であるF-35がアメリカ本土以外では初めて岩国基地に配備される計画となっており、岩国基地は今まで以上に全国の航空ファンから注目を集めている。また、毎年5月に行われる「日米親善デー」では、岩国市民を始め全国から航空ファン、観光客が訪れ、その入場者数は25万人以上と、岩国市では最大級のイベントとして人気を博しているなどによる。

### 3-3 柱島沖に沈む「陸奥」の引き揚げ・復元

内容	比較的水深が浅く、引き揚げ可能な柱島沖に沈んでいる戦艦「陸奥」を引き揚げ、現在の造船技術を駆使して、できるだけ可能な範囲で元の姿に復元し、岩国市で展示・保存を行う。
理由	今年、レイテ沖に沈む戦艦「武蔵」が発見され、その映像が公表されたこともあり、現在、旧日本海軍の戦艦が全世界で注目されている。現在、国内はもとより、全世界どこを探しても、旧日本海軍の「戦艦」の実物が展示・保存されている場所はないため。

### 3-4 錦川清流線でのSLの復活・運行

内容	かつて岩徳線を走っており、現在は元町の児童公園に保存・展示されているSL「D-51」を復元し、錦川清流線に復活させ、錦川清流線を全国に売り込む。
理由	錦川沿線を走る錦川清流線は、その美しい自然環境と相まって、鉄道ファンからは人気の地方鉄道となっている。しかし、その経営状況は厳しく、いかにして同鉄道を維持するかが今後の重要課題となっている。山口県内にはJR山口線にSL「やまぐち号」が走り、多くの鉄道ファンからも「錦川鉄道のほうがSLは似合う」との声を良く聞くため。

### 3-5 オオサンショウウオを活用した「錦川水族館」の建設

内容	錦川水系の宇佐川には、国の特別天然記念物オオサンショウウオが生息している。現在、岩国市と山口県では、河川改修工事に合わせ、100頭以上のオオサンショウウオの緊急保護を検討しており、早ければ10月ごろにもその捕獲作業が開始される。保護されたオオサンショウウオ全てを、再び自然界に戻すことができればいいが、現状では数十匹はそのまま保護される可能性がある。このため、保護され、自然界に戻すことができないオオサンショウウオを活用し、豊かな自然が残る錦川水系に生息する淡水魚や小動物を展示する水族館を建設する。
理由	水族館の建設は、岩国市の子どもたちに環境保護、水質保全の大切さを教える教育施設、また生きた化石といわれるオオサンショウウオの研究・繁殖施設として利用することで、岩国市の自然を紹介する施設として新たな観光客を誘致することができ、そのことより錦川清流線の利用促進、錦町の活性化にも寄与することができるほか、米軍岩国基地に勤務する米軍関係者に岩国市の自然を学習する場として提供することで新たな日米交流の輪が広がる可能性があるため。

### 3-6 岩国錦帯橋空港の改修

内容	山口県東部の空の玄関口として開港した岩国錦帯橋空港は、3年を迎えた現在も、順調な利用状況となっており、この秋にも100万人を突破するほどの人気空港である。特に、世界遺産である宮島に最も近い空港として首都圏からの観光客が良く利用しているが、残念ながら同空港に就航できる機体は中型機のB767型機が限界である。今年発生した広島空港の航空機事故の際、岩国錦帯橋空港は、広島空港の代替空港として十分な機能を果たしたことはすでに知られており、この空港のさらなる利用を図るためには、同空港の機能を拡充し大型機の就航が可能な施設にする。
理由	空港の施設が拡充され、大型機が就航すれば、さらなる利用促進が可能となり、東京を中心とする首都圏との人的交流がさらに活発化する。さらに、大型機の貨物機能を活用し、岩国市の特産品などを首都圏に輸送することで、岩国市経済の活性化、新規企業の誘致(雇用の場の創出)、地場産業の活性化などに大きく寄与し、若者や定年退職者のUターン・人口定住にも寄与するため。



### 3-7 岩国市地方卸売市場の一般開放及び周辺観光との一体化

内容	岩国市地方卸売市場を一般に開放し、新鮮な野菜や鮮魚を観光を含めた市民開放型にする。また、今回提案しているアメリカ村、航空博物館、戦艦「陸奥」の展示場等連携を行い観光の一体化を図る。
理由	国内外からの観光客の受け入れと岩国市民にも活用して頂き、岩国市場と地元生鮮食品販売会社の支援及び市場の有効活用を促す。

### 3-8 岩国駅周辺の住環境整備（マンション）と商業地域の融合並びに、玖西地区の田園都市としてのベッドタウン整備（戸建て）【玖西3万人構想】により、10年後（2027年）の人口16万人の実現

内容	①岩国駅周辺の住環境と商業地域の融合 ②玖西地区のベッドタウン整備 ③中山間地域の農林業従事者及び農地の特区による民間法人経営
理由	①広島へのベッドタウンとしてのマンション整備(民間)への支援を含め、住みたくなる住環境整備(道路網、公園の整備)及び、広島通勤者への支援(公共交通機関利用者支援)を行うため。 ②広島地区への通勤者の支援策(高速道路使用優遇措置、高速バス利用者支援)を実施し、一戸建てを希望する世帯を増加させ、玖西地区25,000人の人口を、10年後を目途に30,000人となる街にするため。

### 3-9 玖西地域に農林漁業の集積基地としての西日本最大級の売り場面積を有する道の駅の建設

内容	肉、栗、れんこんなどを初めとする岩国広域圏の各種農林漁業産品などの地域資源を販売することのできる道の駅を整備する。
理由	従来の休憩施設としての位置づけだけでなく、沿道地域の文化、特産物などの情報を活用し、地域の個性、魅力を生かした拠点施設としての役割を担うことにより、地域間交流の促進を図るため。

### 3-10 市の歴史や市から輩出された偉人の紹介及び錦帯橋の資料館となる総合博物館の建設

<p>内容</p>	<p>市町村合併により、県下2番目の広大な行政面積を持つ岩国市には、各地に遺跡や貴重文化財、史跡、伝統文化がある。しかし、こうした貴重な文化財などを一つの箇所で見学する施設がない。また、岩国市では以前から錦帯橋資料館、女流作家・宇野千代さんや日本のエジソンと言われる藤岡市助博士など、岩国市が輩出した偉人を紹介する偉人館の建設構想があるものの、財政的問題などから計画は頓挫した状態が続いている。このため、錦帯橋がある吉香公園内に、岩国市の歴史を紹介する展示スペースや、錦帯橋資料館、偉人館を配置した総合博物館を建設する。</p>
<p>理由</p>	<p>吉香公園内に総合博物館ができれば、錦帯橋を補完する新たな観光施設として、新規観光客の誘致、観光客の滞在時間の延長などにより、地元経済の活性化に繋がると同時に、将来を担う小中学生の学習の場として活用できる。また、米軍岩国基地の隊員、家族らに、岩国市の歴史、文化、伝統芸能などを学ぶ場として活用してもらうことで、日米相互の親睦と理解、日米交流のさらなる促進なども期待できるため。</p>

# ～結婚・出産・子育て～

(国家を築く子育て・教育づくり)

＜地域医療を担う人材を育てる＞

## 4-1 自治医科大学（看護学部含む）の創設

内容	岩国市に看護学部を含む自治医科大学を創設する。
理由	全国で、医師・看護師不足による医療体系の崩壊が起きている。中山間地域は診療所さえなくなり、岩国においても岩国医療センター（旧国病）及び岩国市医療センター（岩国市医師会病院）では、医師並びに看護師不足により患者の受け入れが定員に及ばない。地方医療を支える人材を支援し、医師・看護師不足解消を岩国市が全国に先駆けて推進する。 拡大する医療費削減と在宅医療を進めるためにも、地域医療に寄与し訪問診療を積極的に参画する医師を育てる事が必要であるため。

## 4-2 基地の人的資源を活用して、英語が話せる岩国市民をふやし、国際交流都市：岩国の創生

内容	市立英語塾の設立／夏休みの学生（帰省する大学生等含む）の英語教育環境の充実／米国エベレットコミュニティカレッジ留学推進事業（青少年海外派遣事業の20年以上にわたる実績を評価）／英語特区の設定。基地内大学窓口の強化（米国留学の情報、対応、横の連携等）／幼保英語プログラムの実施 等
理由	近くで、世界で活躍できる人材を育成するため。

## 4-3 子育て支援施策の充実（給食費無料化、放課後児童学習教室等）

内容	岩国市内全小中学校を対象に20年間の学校給食費の完全無料化を実施する。
理由	岩国市民が安心して子育てができ、かつ出産しやすい環境を進めるために、また、基地を抱える街として公平に基地対策費の使用を進めることが必要であるため。

# 今、岩国から日本の未来を創る

国	市	市議会	
<p>地方における安定した雇用を創出する。</p>	<p>若い世代に選ばれるしごとづくり</p>	<p>基地との共存</p>	<p>1-1 航空機産業の誘致</p>
			<p>1-2 地方免税店の推進</p>
<p>地方への新しいひとの流れをつくる。</p>	<p>都市と都市、地域と地域をつなぐ交流づくり</p>	<p>21世紀(いま)を生きる農業と22世紀(みらい)を創造する林業</p>	<p>1-3 地域ブランド戦略の推進(岩国錦帯橋空港の活用)</p>
			<p>2-1 酒米(山田錦)の生産</p>
<p>時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。</p>	<p>地域の暮らしを支えるまちづくり</p>	<p>昭和への回帰と未来への誘いざない</p>	<p>2-2 100年後を見据えた名木の生産と自然林の復活</p>
			<p>2-3 中山間地域の農林業従事者の拡充及び、農地の特区による民間法人経営の推進</p>
<p>若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。</p>	<p>子育て世代に選ばれる環境づくり</p>	<p>国家を築く子育て・教育(ひとづくり) &lt;地域医療を担う人材(ひと)を育てる&gt;</p>	<p>2-4 竹チップ材や木質ペレットなどの利用の促進</p>
			<p>3-1 アメリカ村の設置</p>
			<p>3-2 航空博物館の建設</p>
			<p>3-3 柱島沖に沈む「陸奥」の引き揚げ・復元</p>
			<p>3-4 錦川清流線でのSLの復活・運行</p>
			<p>3-5 オオサンショウウオを活用した「錦川水族館」の建設</p>
			<p>3-6 岩国錦帯橋空港の改修</p>
			<p>3-7 岩国市地方卸売市場の一般開放及び周辺観光との一体化</p>
			<p>3-8 岩国駅周辺の住環境整備(マンション)と商業地域の融合並びに、玖西地区の田園都市としてのベクトタウン整備(戸建て)【玖西3万人構想】により、10年後(2027年)の人口16万人の実現</p>
			<p>3-9 玖西地域に農林漁業の集大成としての西日本最大級の売り場面積を有する道の駅の建設</p>
			<p>3-10 市の歴史や市から輩出された偉人の紹介及び錦帯橋の資料館となる総合博物館の建設</p>
			<p>4-1 自治医科大学(看護学部含む)の創設</p>
			<p>4-2 基地の人的資源を活用して、英語が話せる岩国市民をふやし、国際交流都市:岩国の創生</p>
			<p>4-3 子育て支援施策の充実(給食費無料化、放課後児童学習教室等)</p>

しごとづくり

まちづくりとひとの流れ

結婚・子育て